■平宗盛 武将、公卿。清盛の後妻時子の長男で、母の権勢とともにめざましい出世するも、一門統率できず。

たいらのむねもり

・ ・ ・ ・ ・ 1147 = 生。父は平清盛。母は平時子。同腹の弟に知盛・重衡、妹に建礼門院徳子がある。

保元の乱・ ・ 1156 = 9歳 :

藤原基衡没・ 1157 = 10歳 : 従五位下。

平治の乱・ ・ 1159 = 12歳 : 乱鎮圧の勲功賞として遠江守に任ぜられ、

・ ・ ・ ・ ・ 1160 = 13歳 : 淡路守に遷任、右兵衛佐を兼ねる。

・ ・ ・ ・ ・ 1161 = 14歳 : 従五位上、

・ ・ ・ ・ ・ 1162 = 15歳 : 左兵衛佐を経て左馬頭となる。

・ ・ ・ ・ ・ 1163 = 16歳 : 美作守に遷り、

・ ・ ・ ・ ・ 1164 = 17歳 : 正五位下、

三十三間堂・ 1165 = 18歳 : 従四位下、

源頼政内昇殿 1166 = 19歳 : 従四位上から正四位下、

清盛大政大臣 1167 = 20歳 : 右中將となり、参議に列して従三位に叙せられる。

厳島神社・ ・ 1168 = 21歳 : 皇太后宮権大夫を兼任して正三位、

・ ・ ・ ・ ・ 1170 = 23歳 : 権中納言・右衛門督となり、

・ ・ ・ ・ ・ 1173 = 26歳 : 従二位、

・ ・ ・ ・ ・ 1174 = 27歳 :

法然浄土宗始 1175 = 28歳 : 左衛門督に転ず。

・ ・ ・ ・ ・ 1176 = 29歳 : いったん権中納言を辞すが、

鹿ヶ谷事件・ 1177 = 30歳 : *選任して右大将を兼ねる。重盛・宗盛が左右近衛大将に並んで世の人を驚かせた。

・ ・ ・ ・ ・ 1178 = 31歳 : 正二位・権大納言・春宮大夫となる。

治承のクーデタ 1179 = 32歳 : *重盛が病没してからは宗盛が嫡子の地位を得、一門を統率すべき立場に立たされる。しかし凡庸な善人といわれる宗盛にはさほどの政治的手腕はなく、強烈な個性と非凡な才能に恵まれた父清盛入道の専権の前に、その影はつねに薄かった。清盛がクーデタを起したときも、宗盛は厳島参詣に赴く途中にあったのと呼び戻され、ともに上洛させられたのである。すべての官職を辞す。

源氏一斉蜂起 1180 = 33歳 : 福原遷都も清盛の独断で、宗盛はこれに賛成ではなかった。諸国源氏の蜂起が進むなかで新都の経営は進まず、さすがの宗盛も見かねて還都を進言したが、清盛は承引せず、いつにない激しい口論に及び、周囲の人はたいへん驚いたという。しかし結局、還都せざるをえなかった。実権は清盛が掌握しているとはいえ、形式的には一門の枢要の地位にあるのは宗盛で、畿内近国の新しい支配体制の確立が企図されたときも、その中核に立ったのは宗盛であった。

平清盛没・ ・ 1181 = 34歳 : 新設された惣管職というのがそれである。畿内近国の武力の再編成をねらいとしたこの職に宗盛がつくことにより、軍事権門としての平氏の存在価値をもう一度高めようとしたわけである。しかしその実をあげるにはあまりに時期が遅く、同年清盛が没したこともあって、宗盛を中心とする平氏一門は、すっかり浮き足だってしまった。

・ ・ ・ ・ ・ 1182 = 35歳 : *権大納言に選任、続いて一気に内大臣まで昇る。

後鳥羽天皇・ 1183 = 36歳 : 従一位に叙せられたのち内大臣を辞す。木曾義仲の入京を前に、宗盛は一門を率い、安徳天皇を奉じて西走せざるをえなかった。平氏と縁の深い九州に新都を築こうとしたのである。しかし九州の在地武士の抵抗は意外なほど大きく、しかたなく宗盛は讃岐屋島に本拠を築き内裏も設けた。屋島にいる前内大臣ということで、以後、宗盛は屋島内府と呼ばれるようになる。

・ ・ ・ ・ ・ 1184 = 37歳 : 瀬戸内海の制圧に成功し備中水島・播磨室山に大勝した平氏は摂津福原にまで進むが、西下した源義経のために一ノ谷合戦に敗れ、再び屋島に退かなくてはならなかった。しかもこの合戦で多くの部将を失い、こんどは一門総力をあげて頼勢の立て直しにかかる必要があった。長門彦島にいま1つの根拠を築き、ここに知盛を配置することで一応果せたかにみえた。この間、屋島の宗盛のもとへは京都から和平交渉ももたらされたが、結局は決裂に終わってしまった。

平氏滅亡・ ・ 1185 = 38歳 : *屋島の本拠は源義経の急襲によって瞬時に落ちてしまう。海上に逃れた平氏は彦島に向かうほかなく、壇ノ浦で最後の決戦が行われた。敗れた平氏は次々に海中に沈んでいったが、宗盛・清宗父子は伊勢三郎能盛のために捕えられ、生虜として京に帰った。弟重衡が居た鎌倉へ送られ、宗盛父子はこの重衡とともに帰洛の途についた。しかし彼らが京を見ることは二度となく、宗盛父子は近江国篠原宿で誅された。子息清宗は15歳であった。父子の首は六条河原で検非違使に渡され、獄門に懸けられた。